

発 言 通 告 書

発言者氏名	加藤ゆうすけ
発言の会議	平成29年 9月27日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

1 歴史資料の保管・活用について

- (1) 市史編さん事業に活用された歴史資料のうち、約 62,000 点が中央図書館 3 階会議室に運び込まれている。貴重な歴史資料については、温度・湿度の管理や、虫食い等からの保護を要するものもあるが、現状について、市長の所見を伺う。
- (2) 市史編さん事業に活用された歴史資料に限らず、市史を後世に伝承するためには、資料の不断の収集が不可欠である。ふえ続ける自然・人文科学の歴史資料の保管場所、保管方法及び活用方法について、市長の所見を伺う。

2 軍港資料館等について

- (1) 軍港資料館等検討部会より、「軍港資料館等検討報告書」（平成 29 年 2 月）が示されたが、同報告書の内容と横須賀の近代史を後世に伝えるための資料館のあり方について、市長の所見を伺う。
- (2) 軍港資料館の整備に向けて今後どのようなスケジュールで動いていくのか。

- (3) 「海洋博物館」とは、何を指すのか。「軍港資料館」とは、別の施設なのか。

3 歴史的価値・知名度の高い、浦賀の地の今後について

- (1) 浦賀警察署の移転、千代ヶ崎砲台跡の日本遺産構成文化財の認定、浦賀奉行所跡地の整備、浦賀奉行所開設 300 周年など、浦賀を取り巻く状況はにわかには大きく動き出している。市長が訴えた浦賀ドック跡地の再生も含めて、総合的に浦賀のまちづくりを考える必要がある。

ア 千代ヶ崎砲台跡などの浦賀の歴史遺産を活用する上で、周辺地域の開発も含めた、浦賀のまちの全体構想を打ち出していく考えはあるか。

イ 造船技術史上重要な産業遺産が浦賀ドック内に雨ざらしのまま放置されている現状をどう思うか。

ウ 産業遺産をしかるべき保存環境に移し、本市の産業遺産に対する思い入れと、歴史遺産を後世に伝えていく意思を市内外に示していくべきであると考えているが、いかがか。

エ 浦賀奉行所跡地の譲渡について、住友重機械工業（株）とどのような連絡調整を行っているか。

オ 「横須賀復活」を目指し市政運営する中で、浦賀奉行所開設 300 周年を目前に控えた浦賀に期待する役割は何か。

- (2) 海洋都市構想と浦賀ドックの関係性について

ア 海洋都市構想の中で浦賀ドックをどのように位置づけるのか。

イ 「浦賀ドックを海のテーマパークに」というチラシの記述は、住友重機械工業（株）との打ち合わせを行った上での記載だったのか。

ウ 住友重機械工業（株）代表取締役社長らと面会した際に、浦賀ドックのことについてどのような話し合いをしたのか。また、今後の話はあったのか。